
Future

夕霧緋色

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

F u t u r e

【Nコード】

N 9 2 9 8 A

【作者名】

夕霧緋色

【あらすじ】

未来が見える、って良い事なのでしょうか？未来が見えない、って良い事なのでしょうか？男はある日、未来を手に入れます。そこに見えたものは…。

たった一度の出来事で、俺は全てを失ってしまった。

もしもあの時、俺がこうしていれば…。

あんなことをしなければ…。

悔やんでも悔やみきれない。

どうしようもない思いが頭の中で渦巻く。

こうなることを知っていたのなら、俺は失敗しなかった。

俺に未来が見えていたなら、失敗などするはずも無かった。

未来が見えていたなら…。

『ナニヲ、望ム？』

俺は全てを投げ打って、ここに辿り着いた。

富も、名声も、力も、幸福も。全て、失った。

『ナニヲ、望ム？』

どうしても手に入れたかった。

二度とあんな目に遭いたくなかった。

『ナニヲ、望ム？』

俺の願いは、叶えられる。
目の前にいる、神によって。

『ナニヲ、望ム？』

俺が望んだもの。

『ナニヲ、望ム？』

「∴未来を。」

俺には未来が見える。ほんの数秒後の未来も、遙か先の未来も。
一人でここに暮らしているが、この力のおかげで、困った目に遭ったことは一度も無い。

どんなに周りの人が驚くようなことでも、俺は驚かない。

どんなに周りの人が悲しむようなことでも、俺は悲しまない。

どんなに周りの人が怒るようなことでも、俺は怒らない。

すべて、知っているから。

俺の目は、これから起こる全ての出来事を知っている。

もうこれで、失うものは何も無い。そう思った。

ある日の朝。いつものように未来を見た。

俺の目に映るのは、普通の日常。そうであるはずだった。

未来の中で、俺は歩いていた。

そして、突然、俺に若い男が肩からぶつかった。

若い男が走り去る。

俺が道にくずおれる。

通り魔、か。

未来の中で、俺は死んだ。

いつ、どこで俺が殺されるのかはわかった。

だから、その瞬間にその場所にいないだけだけの話だ。

その日の夜のニュースでは、俺ではない、他の誰かが通り魔殺人に遭ったことが報道されていた。

次の日の朝に見た未来でも、俺は死んだ。

交通事故。車に乗っていると後ろから追突され、車が炎上。そのまま焼死。

未来がわかっているから、回避できる。

その日も俺は生きていた。

次の日も、その次の日も、俺の未来で、俺は死んだ。

どんなに生き延びても、死の影は俺にまとりついて離れない。

焼死、溺死、事故死、病死。

思いつく限りのあらゆる死のパターンを、俺は未来に見た。

いつからか、それが辛くなっていた。

今日、俺は死ぬのか？

明日か？明後日か？それとも今この瞬間か？

未来なんて見えなければいい。

いつか自分が死ぬ運命にある。それはわかっていた。

それが自分の目に、事前にはっきりと見えるのは、辛かった。

もう、終わりにしよう。

俺自身を終わりにしよう。

俺は崖から飛び降りた。

『望ミハ、叶エラレタ』

『元ノ世界へ戻ルガヨイ』

俺が最初に見た未来。

俺の運命。

ああ、そうなのか。

俺は俺自身を失ってしまった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9298a/>

Future

2010年11月19日15時53分発行